

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 放課後等デイサービス プレミアムAngeli

公表日 令和 7年 3月 31日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		集団活動、個別活動に合わせ部屋のレイアウトを変更を行い、柔軟に対応している。	今後もスペースの確保、基準をしっかりと守っていききたい。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		児童発達支援管理責任者、児童指導員の配置の基準は守っている。	今後も配置はもちろん安全面を第一に考えた配置を行っていく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		施設内は、手すりの設置、段差のないフロア、点字ブロック等のバリアフリー化されている。また、イラストや文字等で視覚化している。	安全面には、今以上に考慮した環境づくりを行っていききたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の室内、事業所内の清掃に加え、教材や玩具の消毒を徹底している。掲示物等を貼る場所を工夫し空間づくりに努めている。	安心して過ごせる環境を引き続き継続し、安全点検などをこまめに行っていく。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		小集団、個別活動が出来る部屋を完備している。事業所内をパーテーションで区切るなどの対応も行っている。	利用者の特性や気持ちを尊重していくことが出来るようレイアウトなども見直しを行っていく。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎日のミーティングの中で、前日の振り返り、改善案、計画案を話し合いスタッフ全員で共有を図っている。	共有したことを確実に実践していけるよう指導員の研修や意識づけをしっかりと行っていく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者様の評価結果を踏まえて、保護者様のニーズやご意見を共有し今後に繋げている。	保護者様の意見をもとに、体制を整えていきたい。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々のミーティングでは、職員全員が意見を出し合うことが出来ている。2か月に1度、管理者と職員での面談を行っている。	意見を反映できる場を今後も設けていく。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		業務、支援、環境対策の内容をディチェックにて評価を行っている。	働き方等改善できるよう風通しのよい事業所作りを行い、第三者や管理者との面談を継続していく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		内部研修では、感染症、ハラスメント、防災、実例検討等の内容を行っている。年間スケジュールを決め取り組んでいる。また、外部からの講師を招き、研修等も行っている。	内部研修は、継続して行っていく。外部研修など職員のスキル向上につながる研修などを取り入れいきたい。
適切	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページにて公表をしている。また、事業所内に掲示をしている。	定期的に見直しを図っていききたい。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		契約時にアセスメントを行っている。送迎時や日々のやりとりの中で聞き取りを行いニーズの把握に努め、それに沿った計画書を作成している。	保護者様のニーズをより聞ける場を作っていき、質の高いサービス計画を作っていきたい。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		日々のミーティングや支援会議等での職員への聞き取りを行っている。また、計画書作成後は支援目標の説明をし統一した支援へ繋げている。	支援会議等を継続していくこと、また、担当職員だけでなく、様々な職員の意見を反映し様々な視点からの意見を取り入れていく。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画書作成後は支援目標の説明、助言をし担当職員へはもちろん事業所内で統一し、支援へ繋げている。	支援の見える化をし安定した支援が出来るようにしていく。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々5領域にそったねらい、食事、排泄、送迎の様子などを記録している。また、必要に応じてミーティング時などに共有している。	日々の記録等は継続して行っていく。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		計画書の中にすべての項目の設定をし、作成をしている。半年に1回見直しも行っている。ガイドラインはいつでも閲覧できるようにし職員への周知をおこなっている。	家族支援、移行支援、地域支援・地域連携については、今後より力をいれて取り組んでいく
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		年間の活動内容を専門職員で作成し、それに沿って進めている。また、月案、日案などを計画し様々な職員で意見を出し合い検討をしている。	今年度の課題を踏まえて計画を立てる場を作っていき、チームでの共有を図っていききたい。

な 支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	日々の活動はくり返しを取り入れているが、少しずつ変化をつけて取り組んでいる。3か月を目安に課題を見直している。季節の行事や制作、cooking、野外活動などでは新しいことに挑戦することを行っている。	成長に伴った課題や季節の行事やイベントをより工夫していきたい。地域との交流ができる活動等を考えていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	大集団、小集団、個別療育を取り入れている。それぞれの組み合わせで支援を行っている。児童の様子や状況に応じて内容を変更することも行っている。	利用者の特性や発達段階に応じた対応がより出来るよう柔軟に考えていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	支援前には、ミーティングを行い、1日の流れ、職員の配置、役割を確認している。必要に応じてシミュレーションを行っている。	チームとして支援を行う上でコミュニケーションをしっかりととり、より最善の役割分担を考えていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	支援終了後には、管理者への報告を行っている。次の日のミーティング内で前日の振り返り、反省を行い共有、改善へ繋げている。	振り返りや反省点を踏まえた改善点をしっかりと繋げていけるようミーティング等での話し合いを継続していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	日々、5領域のねらいに沿って記録を行っている。様々な職員が記録することで視点の偏りがないように努めている。	記録をとることを継続し、支援の視点の幅を広げていくことを目標に取り組んでいきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	半年に1度のモニタリングを実施し、保護者様への聞き取り(アセスメント)を行っている。支援会議等を行い事業所内で見直しを行っている。	今後も半年に1回のモニタリングの継続を行っていく。支援会議を踏まえた話し合いを継続していく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○	4つの基本活動に沿った活動内容、支援を行っている。活動に、制作、指先・運筆トレーニング、cooking等を組み込んで取り組んでいる。また、自立に向けた活動や余暇の提供をしている。	地域支援、地域との交流の機会を増やしていきたいと考えている。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○	子どもの意思を尊重し、自己決定をする機会を多く作っている。言葉で伝えることが難しい場合はカードの使用や手話・ジェスチャーなどで伝える練習を行うなどし、選択できるよう課題としても取り組んでいる。	自己選択するために必要なスキルの向上を目指し、様々な活動や支援を取り入れていく。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○	担当者会議には児童支援発達責任者が出席している。場合によって担当指導員の同席も行っている。	継続して参加していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	協力医療機関と連携をしている。相談事業所や複数の障害児通所支援事業所を組み合わせ利用している場合は連携できる体制を取っている。	引き続き、共有を図れる体制を作っていく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	学校のスケジュールをHP等で確認をし共有を図っている。また、送迎時には学校からの申し送り等で児童の様子を共有している。	継続して行っていく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	保護者様や相談支援員を介した情報交換は行っている。シートの活用等を行っている。	情報共有と相互理解へは前向きに取り組んでいきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	児童の特性、関わり方を書面化し情報共有を行った。必要に応じて会議や引継ぎを行う体制は整えている。	情報提供は、必要に応じて行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	外部講師を招いたり、研修への参加は行っている。学校、保護者様を中心に障がい福祉サービス事業所が集まるケース会議には参加している。	地域の児童発達支援センターとの連携を図ってきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	交流の機会は少ないが、地域のイベントに出向いたり、公共の場(触れ合える場)へ積極的に出かけることに取り組んでいった。	地域の活動や地域の児童との交流ができる場を探していきたい。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	○	参加できていない。会議記録等は閲覧をしている。	今後、検討はしていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	送迎時に1日の様子や気になることをお伝えしたり、連絡帳で日々の様子をお知らせしたりしている。	保護者様が意見を言いやすい環境づくり、共有したことを支援に活かし、フィードバックをし相互理解をはかっていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	少数で行える保護者会を5回に分けて実施した。保護者様同士で情報を出し合い意見交換出来る場を提供した。	保護者様のニーズに合わせた話し合いの場や相談し合える場を検討していきたい。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	運営規定、利用者負担等については、契約時に行っている。支援プログラムは保護者会でも説明を行い、保護者様に資料配布を行っている。	保護者会で、定期的に知らせる場を設け、周知に向け行っていく。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	担当者会議では、保護者様の意向や要望を聞き取り入れている。こどものことを考えた内容を考え1人1人異なる目標や取り組みを行っている。	担当者会議だけでなく、日頃から意見を言いやすい関係づくりを心掛けて丁寧に対応していきたい。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		作成後は、保護者様に説明をし、サインを頂いている。要望があった際には、内容の変更を行うようにしている。	支援内容を説明するだけでなく、日々の支援の成果や困りごとなどを伝えあえる関係づくりを今後も作っていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時には、様々な職員が対応することで多方面からの様子や支援での気付きをお伝え出来るようにしている。要望や相談を受けた際には、管理者よりフィードバックを行っている。	面談という形は行っていっていないため、今後検討をしていきたい。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		今年度は、数日にわたり保護者会を実施した。少人数の会と開くことで、学年の近い保護者様だけでなく同じ悩みをもった保護者さまが会に参加することで様々な意見を交換できる場になった。	保護者会は、今年度の課題を活かし、より保護者様の交流ができる場を考えていきたい。きょうだい支援については、交流できる場を今後検討していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情窓口を設けている。また、苦情や要望があった際には、職員間でも情報を共有し迅速かつ丁寧に対応できるよう努めている。また、普段から連絡をとることで要望をつたえやすい関係づくりを心掛けている。	保護者様が意見を言いやすい環境や関係づくりを心掛けていくとともに迅速に対応できる体制を今後も作っていく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月、新聞や日々の様子を配布し日々の様子や活動内容をお伝えしている。ホームページの作成も行っている。	ホームページの認知を高めていけるよう保護者様への案内や情報発信は、今後もわかりやすく行っていきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報、鍵付きのキャビネットでの保管を行っている。守秘義務を守り、こどもや保護者様の個人情報安易にもれないよう努めている。	今まで以上に留意していく。職員への周知もしっかりと行っていく。
	44	障がいのあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		子どもとの関わりは一人ひとりにあった、言葉だけでなくジェスチャー・イラスト・2択等の方法で自己選択ができるよう配慮を行っている。	配慮していけるよう様々な方法を模索していきたい。
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域の警察書に交通安全教室を行っていただいたり、地域の清掃活動に参加させていただいた。事業所へ招く行事等は行っていないが、地域の方と触れ合える場に出向くようにしている。	現在は、地域の大学やボランティアの方との関わりを増やしていきたいと検討している。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		それぞれにマニュアルを作成しそれに、沿った研修を年間スケジュール立てで行っている。保護者会でも説明を行った。	保護者様へのマニュアルの認知がまだ不十分のため、周知への取り組みを行ってきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を策定している。定期的に、訓練を実施し緊急時への対応ができるよう備えている。非常食や非常時に必要な生活用品の備蓄を行っている。	様々なことを想定した訓練の実施を行っていくとともに、常に見直しを図り最善の準備を行っていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に情報の共有を図っている。また、成長や病状に応じてその都度対応方法をお聞きし緊急時への対応に努めている。	確認を行い、しっかりと対応していきたい。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		アレルギーの有無を契約時にお聞きし、各児童に応じた配慮・対応を行っている。また、必要に応じてきざみ食等、食事への対応方法を取り入れている。	食物アレルギー時はないが、偏食や様々な食事方法に柔軟に対応していきたい。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づき研修を行っている。また、週に1回、月に1回と項目別に安全点検の実施をしている。事業所では、利用者とともに避難訓練（火災、地震、水害、不審者など）を毎月1回行うようにしている。	安全計画に基づいた研修、訓練の定期的な実施を行い、安全計画等も見直しを行い安全管理への意識を高めていきたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		保護者会にて安全計画の内容の説明、資料の配布を行った。 (置き去り防止のプザーの設置・環境整備等)	説明は行っているが、定期的に発信をしていくことで周知に努めたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットは、その都度作成し次の日のミーティングにて話し合いを行っている。また、事例検討会を毎月行い事例をもとに改善策を出し合い再発防止に努めている。	再発防止に繋がるような事例をもとに改善や研修を継続していく。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会の設置を行っている。毎月デイチェックを行い職員への意識づけ、ニュース等で起こった事例などをともに話し合うなどの内部研修を行っている。	職員のメンタルトレーニングの実施を研修などで取り入れていく。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		虐待を行わないことを前提とするが、保護者様への説明と記載を行う体制は出来ている。	身体拘束を行わないことを前提に、研修の実施や働きやすい環境、風通しのよい環境づくりを作っていく。	